

# おもひで

## 宮医管通信

入学式！



第22号

発行日  
平成30年  
3月9日

発行  
宮医管通信  
製作委員会  
〒889-1701  
宮崎市田野町  
甲1556-1  
宮崎医療管理  
専門学校内  
TEL.0985-86-2271

新入生歓迎会は  
大縄跳び大会



福祉機器見学など、  
学校外の施設にも  
見学学習に行きま  
した。



福祉職場ガイダンスでは、  
多くの施設様が来られ、熱心に説明し  
ていただきました。



今年の学園祭は大雨。  
しかし、思いのほか、  
多くの方が来校され  
限られた時間の中、盛  
り上がりました。



専各連ス  
ポーツ大  
会



今年もクリスマスツリー  
飾りました☆彡



保育科、保育園での音楽劇  
みんな、がんばりました。  
子供たちも喜んでくれて、  
うれしかったね！



いつも私たちを見守ってくれている  
鱈塚山、きれいに冠雪しました

各  
科、  
特  
別  
講  
座  
も  
盛  
り  
だ  
く  
さ  
ん  
充  
実  
し  
た  
内  
容  
で  
し  
た。



特別功労賞  
中村保寛さん  
介護福祉科

本年度卒業式において、特別功  
労賞の表彰が行われます。この賞  
は、在学中に学校に対し顕著な功  
労があった方に特別に贈られるも  
のです。（ちなみに学校初です）  
受賞者の中村さんは、校庭等の  
美化活動、設備の改修など、自主  
的に活動され、よりよい学習環境  
づくりに貢献なさいました。よっ  
て、このたび卒業にあたり賞を贈  
られることになりました。  
おめでとございます！  
そして、ありがとうございます。



# 「忘れられない人」

忘れられない人たちがいる。  
私が、本校を卒業して、介護老人保健施設に勤めていたころの話

## 職員の部屋

女性スタッフのことが大好きだった男性利用者のYさん。体調を崩して、死期が近いかもしれないと申し送りがあった。そんなある日、久しぶりに車椅子を離れて立って歩かれるYさんの姿を見て、嬉しくなった私は大きく腕を広げてYさんがこちらに歩み寄るのを受け止めた。小柄なYさんは、私の腰に手を回し「よしよし」と撫でてくれる。ぎゅっと抱きしめながら、「Yさん、歩きましたね！元気が戻ってきましたね！」と言うと、Yさんはかすれた声で「いやあ。もういかんごつあるわ。今までおおきになあ」と言った。何だか無性に切なくなり、「そんなこと言わないで。まだまだ元気であるよ」と、Yさんを抱きしめる腕に力を込めた。

翌日の深夜、私が夜勤中にYさんは静かに息を引き取った。呼吸のないことに気づいた私は、ドクターが到着するまで、夜勤者と交代しながら懸命に心臓マッサージをした。  
「お願い。戻ってきて」  
祈りは通じることなく、Yさんはそのまま旅立っていかれた。前の日に、私に「今までおおきになあ」と言った、その優しい顔のまままで。

その女性利用者はまだ60代で、新興宗教にのめり込みご家族から縁を切られていた。末期の癌で、危篤の知らせにも最後までご家族の反応はなかった。今夜が山とされたあの日、Sさんは無事に朝を迎え、夜勤だった私は日勤者へ申し送りをしてきた。申し送りの最中、Sさんが亡くなられていると一報が入った。夜勤中、「一人で逝かせてなるものか」と、何度も巡視を繰り返した。下顎呼吸の始まったSさんの冷たい手を握り、自分の体温を送るつもりで声かけを続けた。そのSさんが、たった一人で、誰にも看取られることなく逝って

しまった。私はただ、その事実打ちのめされ、必死の思いで申し送りを終えた後、休憩室にもつて泣いた。しばらくすると上司が部屋に入ってきた。看護師の上司だったため、とっさに「泣いていることを叱られる」と思ったが、その上司はこう言った。  
「くやしいよね。悲しいよね。だから泣いていいよ。一生懸命ケアしたからこそ、辛いよね」  
ご家族にしか知り得ない事情がある。肉親だからこそ複雑な思いがある。私たちが介護者は、現実の厳しさに目眩を覚えながらも、ただひたすらに利用者本人に寄り添い前に進んでいく。

100歳を超えた女性利用者のMさんは、結婚すると報告した私に、ベッドの上で正座して居住まいを直し、こう告げた。  
「いいか、よおく聞けよ。旦那に腹が立つても、はい分かりましたと言えよ。それから後ろを向いて舌を出せ。男は馬鹿だけど気位が高いから、面と向かってぶつかるなよ。それから、いつも笑っておんなさい。女が笑ってりゃ、家はうまく回る。そうかあ、結婚するの、おめでとさーん」

黙示録のようなその格言に、神々しさを感じた出来事。  
重度の認知症だった女性利用者のKさん。毎月の3泊4日のショートステイは、いつ娘さんが迎えに来るのか、今が何時なのか、ご飯を食べたかどうか、部屋にいてもいいの、と、本人はもちろん、こちらも疲労困憊するほど同じ質問をエンドレスでする方だった。初日、2日目・・・と、日を追うごとにスタッフの対応がそつげなくなり、私自身の対応も丁寧さとは程遠く、情性で返答していたように思う。ある日の深夜、仕事をしていて私のところに目が覚めたKさんがやって来た。夜勤の疲れもあり、「また同じ質問か」と多少うんざりした私に、Kさんはこう言った。  
「私、いつも同じことを聞くでしょう？自分でも分かっているの。分かっているのに心配で仕方なくてつい聞いてしまう。いつもごめんなさいね。でもね、あなたはいつもちゃんと答えてくれる。本当にありがと」

「私、いつも同じことを聞くでしょう？自分でも分かっているの。分かっているのに心配で仕方なくてつい聞いてしまう。いつもごめんなさいね。でもね、あなたはいつもちゃんと答えてくれる。本当にありがと」  
昼間に見せる、不安でいっぱいKさんとはまるで違う凛とした表情で、まっすぐな目で私を見て言った。途端に「違う。ちゃんと答えてない。Kさん、ごめんなさい」と、私は深く自分

を恥じた。きつと、Kさんは見透かしておられた。そして、謝意を伝えることで私に気づかせてくれたのだと思う。  
「そのケアは本物ですか？本当に私を見ていますか？」と。

就職して初めて受け持たせていただいた女性利用者のAさん。6年の付き合いののち、満100歳で天に召された。通夜の席で、涙の止まらない私に、入所中一日おきに面会に来られていた長女さんが言われた。  
「あなたが担当で、本当に良かった。母は幸せものでした」

介護の仕事をしていると、時にどうしようもなく心が震えて、目の前で起きてくる出来事の尊さに、何か見えない力が働いているかのような、そんな宝物のような瞬間がある。だから私は、自信を持って学生たちに伝える。介護の仕事は、他のどんな仕事にも得難い尊さが必ずある。迷いながら、苦しみながら、失敗を繰り返しながら進んだその先に、それが全部チャラになるような大きなご褒美をもらえることがある。だから、介護っておもしろい。そして、そんな機微を感じて、そのご褒美を見落とさない人であってほしいと心から願う。

私にとって大切なことは、今は天国にいる忘れられない人たちが教えてくれた。あの人たちに恥じぬよう、襟を正して生きていきたい。



卒業したら蒼雲の会で

つながろう！

facebook もあるよ

卒業生の皆さん、卒業、就職、進学、それぞれおめでとうございます。在校生の皆さん、進級、おめでとうございます。この一年の学校生活はいかがでしたか？楽しいこと、うれしいこと、苦しいこと、悲しいこと、ひよつとすると、腹立たしいことも？あったでしょうか。

様々な出来事、出会いが、皆さんを一步步前進させたのではないかと、思います。ブランドハブンススタンス、という言葉ががあります。「個人のキャリアの8割は予想しない偶発的なことによって決定される」とし、その偶然を計画的に設計して自分のキャリアを良いものにしていく、というポジティブな考え方です。

失敗したことも、いやな出来事も、考え方次第です。だめだろと思うか、何かのチャンスととらえるか。

新しい春がはじまりますね！  
新しい人との出会い、新しい出来事！  
すべてを自分の糧にして、前に進みましょう！  
がんばれ！みんな！

4年間、学園通信の担当をさせていただきました。

学生の皆さんをはじめ、教職員の皆さんのご協力のもと、どうか、続けることができず。業務を言い訳に、予定通りに発行できなかったことを、ここでお詫び申し上げます。

この通信が、少しでも学校の皆さんの、そして学外の皆さんとのコミュニケーションの懸け橋になればと思っています。  
ありがとうございます。

鬼東咲子